公益社団法人 宮崎市観光協会
〒880-0811 宮崎市錦町1番10号
宮崎グリーンスフィア壱番館3F
TEL.0985-20-8658
https://www.miyazaki-city.tourism.or.jp/

神話とめぐる 宮崎

みやもうで

記紀の世界が身近になる

日本の神話というと、国生みや天の岩戸、天孫降臨などの話を思い出すだろう。これらは『古事記』『日本書紀』という古代の書物に収められている。この『古事記』『日本書紀』二冊を合わせて記紀と呼ぶ。

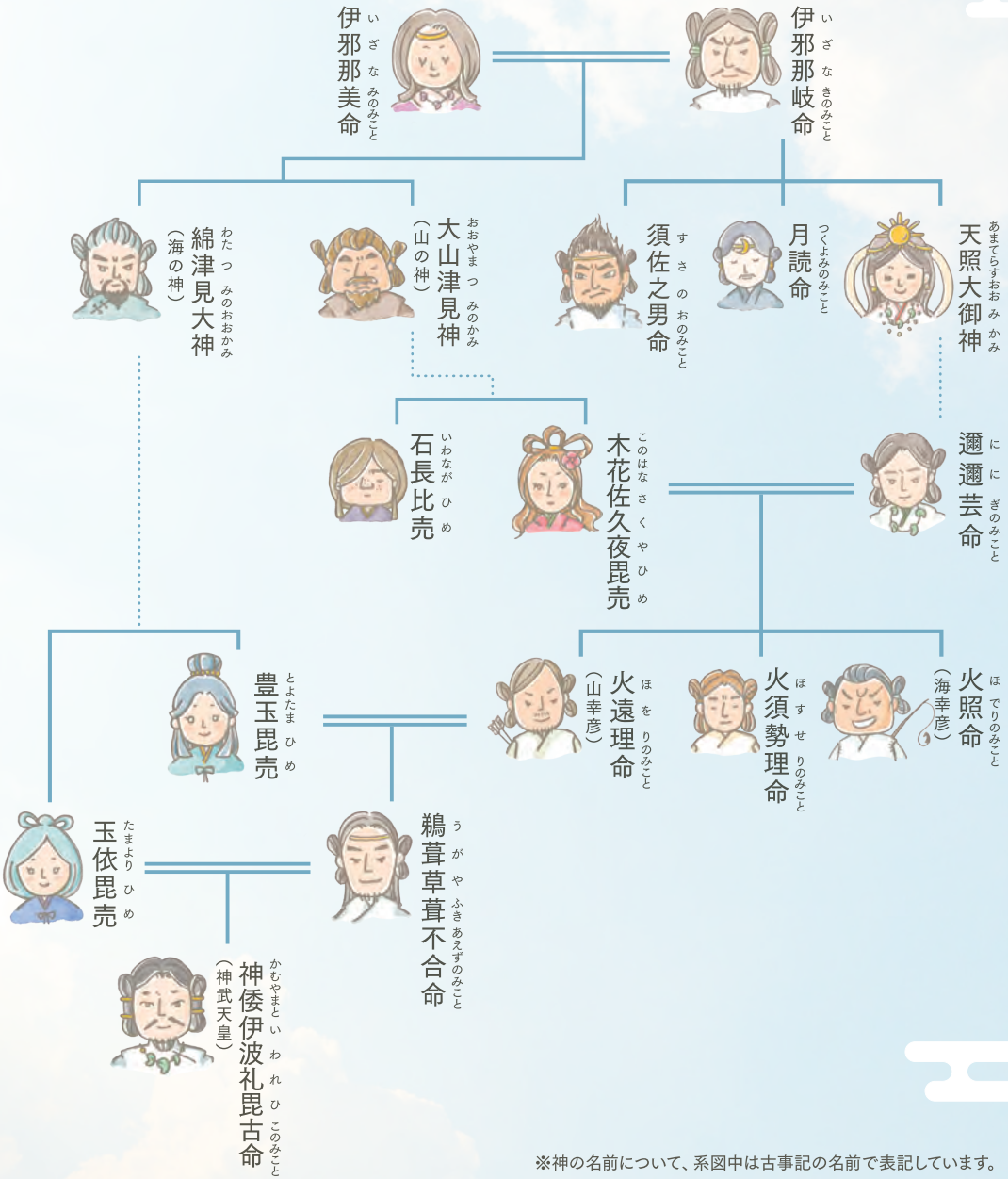
記紀には、日本の国土の成り立ちから、奈良時代以前までの神話と歴史が綴られている。二冊の主な違いとしては、『古事記』が全3巻の国内向けの内容であるのに対し、『日本書紀』は全30巻と系図1巻からなる海外向けであることが挙げられる。編纂の目的はどちらも、安定した政権が確立されたことをアピールする意図があったという。

いずれにせよこのように、日本で1300年もの長きにわたって伝えられてきた書物は数少ない。特に神話はこれまで、日本人の精神と文化に大きな影響を与えてきた。先人が大切に守り伝えてきた日本の神話をこれからも伝えていくために、神々の物語が息づく場所、宮崎をぜひ訪れてほしい。宮崎は記紀に記された地名を始め、神々をもてなす神楽や森厳な神社に事欠かず、いつでも構えることなく、記紀の世界に飛び込むことができるのだから。

青島

陽光降り注ぐ神の島。国の天然記念物の指定を受けた、奇岩「鬼の洗濯板」に周りを囲まれている。青島神社の参道には、御祭神の彦火火出見命と豊玉姫命の詠みかわした歌の碑が建つ。

神々の系図



※神の名前について、系図中は古事記の名前で表記しています。

目次

神々の系図 02

瑞穂（みずほ）の国、日本のはじまり 04

哀しみの闇に閉ざされる世界 06

国譲りと天孫降臨 08

木花開耶姫（このはなさくやひめ）との出会い 10

海幸彦と山幸彦 12

神倭伊波礼毘古命（かむやまといわれひこのみこと）、初代天皇に 14

宮崎の神楽 16

宮崎の史跡と施設 18

宮詣神話MAP 20

瑞穂の国、日本のはじまり

ー阿波岐原（あわきはら）の禊（みそぎ）で生まれた太陽神ー

昔々、世界は混沌とし、天と地は分かれていなかった。そのうち清く明るいものが天となり、重く濁ったものが地となった。次々と神が生まれ身を隠していったが、男女対となる神が生まれた。男神を伊邪那岐命、女神を伊邪那美命という。

二柱の神は天浮橋の上に立ち、下した矛でコオロコオロとかき回して引き上げると、しずくが島となった。その島で夫婦となり、日本の国土となる島々を生み、また海、山、船、食料、火などの神々を次々と生んでいった。

最後に生んだ火の神で負った火傷がもとで伊邪那美命は命を落とし、黄泉の国へと去ってしまう。

嘆き悲しんだ伊邪那岐命は、火の神を手に掛けて黄泉の国に赴く。出迎えた伊邪那美命は「黄泉の国の神に相談してきます。その間私をご覧になってはいけません」と言い残し、御殿の奥に消えていった。

待ちきれず御殿の中に入り、目にしたのは妻の変わり果てた姿。驚き逃げ出した伊邪那岐命を、恥をかかせたと追いかける伊邪那美命。黄泉の国の境界付近であわや捕まるという時、大岩で道を塞いでようやく九死に一生を得た。

「黄泉の国は随分汚く嫌なところであった」。

伊邪那岐命は日向の阿波岐原で禊を行い、天照大御神、須佐之男命、月読命が誕生する。「たくさんの子どもを生んできたが、最後に三人の貴い御子を得た」と、伊邪那岐命は殊のほか喜んだのだった。

みそぎ池

宮崎市

伊邪那岐命が黄泉の国での穢れを清めるために禊を行い、23柱の神々と天照大御神、須佐之男命、月読命の三貴子が生まれた。神事で心身の罪穢を払うために唱えられる祓詞にも、阿波岐原の地名と禊の記述が見られる。

〒880-0835 宮崎市阿波岐原町産母（阿波岐原森林公園 市民の森）
☎ 0985-39-7308（市民の森管理事務所）

住吉神社

宮崎市

伊邪那岐命の禊から生まれた神々を祀る。社紋は住吉三神を御祭神とする全国2000以上の住吉神社の元宮であるしるしだという。

〒880-0122 宮崎市大字塩路3082番地　☎ 0985-39-8500

はらえことば 祓詞

掛けまくも　畏き伊邪那岐大神　筑紫の日向の橘の小戸の阿波岐原に
御禊祓へ給ひし時に生り坐せる祓戸の大神等　諸々の禍事　罪　穢有ら
むをば　祓へ給ひ　清め給へと白す事を　聞こし食せと　恐み恐みも白す

江田神社

宮崎市

古色蒼然たる社殿が緑深き参道の奥で威容を放つ。御祭神は伊邪那岐命と伊邪那美命。創建の年は明らかでないが、『延喜式神名帳』（927年）に記載がある古社で、古くより崇敬されてきた。パワースポットとしての人気も高く、全国から参詣者が跡を絶たない。伊邪那岐命が禊を行った、禊発祥の地でもある。

〒880-0835 宮崎市阿波岐原町産母127番地
☎ 0985-39-3743

御神木のクスノキの根元にあるコブは、強運を得たい人々の手で輝くばかり。

哀しみの闇に閉ざされる世界

―太陽神が天の岩戸に引き籠る―

天照大御神、須佐之男命、月読命の三貴子に伊邪那岐命は、それぞれ高天原、海原、夜の国を治めよと命じた。一人須佐之男命だけは従わずに、母の住む根の国に行きたいから嫌だと駄々をこね、伊邪那岐命の怒りを買って追放を言い渡される。須佐之男命は、姉の天照大御神に別れを告げようと高天原を訪れた。

「弟はわが国を奪いに来たに違いない」。天照大御神は須佐之男命に理由を聞くも安心できない。潔白を証明する賭けで姉に勝った須佐之男命は、図に乗って次々と悪行を働く。初めは弟をかばっていたものの、機織り小屋に馬の生皮を須佐之男命が投げ込み、驚いた機織りの娘が命を落とすに至り、天照大御神はとうとう天の岩戸を開けて、その奥に引き籠ってしまう。

光を失った世界は深い闇に包まれ、さまざまな禍が起こり続けた。光を取り戻すためにはどうすればよいのか。八百万の神々は天の安河原に集まり知恵を絞った。思金神に妙案が浮かんだ。それは、天の岩戸の前で宴を催すというものだった。

宴では天宇受売命が面白おかしく舞い踊り、高天原全体が振動するほど神々の笑いを誘う。興味をそそられた天照大御神は、天の岩戸を少し開けて「なぜ皆は笑っているのか」と問うた。「あなたに勝る貴い神がおられ、皆で喜んでいるのです」。天宇受女命の言葉に誘われて天照大御神が外を覗き込んだ瞬間、天手力男神に連れ出され、再び世界はあまねく光に満ち満ちた。

天岩戸神社

高千穂町

西本宮と東本宮に分かれ、岩戸川が間に流れる。西本宮の御神体は天の岩戸で、神職の案内を受けて拝殿の裏にある遥拝所から拝観できる。東本宮は、天の岩戸から出た天照大御神が最初に暮らした場所に祀られている。両社とも御祭神は天照大御神。一帯は清浄な気に包まれ、背筋がピンと伸びる。

〒882-1621 西臼杵郡高千穂町岩戸1073番地1
☎ 0982-74-8239（8:30～17:00）

天安河原

高千穂町

天岩戸神社より岩戸川を500m遡った河原に、間口40m、奥行30mの「仰慕窟（ぎょうぼがいわや）」と呼ばれる大洞窟がぽっかりと口を開けている。天照大御神が天の岩戸の奥に籠った際、八百万の神々が話し合いをしたところと伝えられる。願いをかけて参拝者が石を積むことでも有名。

〒882-1621 西臼杵郡高千穂町岩戸
☎ 0982-74-8239（天岩戸神社社務所 8:30～17:00）

高千穂峡

吸い込まれそうな美しいエメラルドグリーンの水面を、滝のしぶきを受けながらボートを漕げば、誰もが神話の世界の住人になったかのように思える不思議な空間。それもそのはず、渓谷の岩壁は柱状節理といわれる、太古に起きた阿蘇山の噴火での火砕流が堆積したもの。12万年前と9万年前のものが2層をなす。

〒882-1101 西臼杵郡高千穂町大字三田井御塩井
☎ 0982-73-1213（一般社団法人 高千穂町観光協会）

二 国譲りと天孫降臨

ー天つ神の御子、高千穂に降り立つー

高千穂神社（たかちほじんじゃ）

高千穂町

約1900年前に創建された、古式ゆかしい神社。主祭神は高千穂皇神と十社大明神で、高千穂皇神は日向三代といわれる邇邇芸命、火遠理命、鵜葺草葺不合命とそれら配偶神の総称で、十社大明神は、神武天皇の兄である三毛入野命とその妻子10柱の神を指す。農産業・厄祓・縁結びの神として広く信仰を集める。

〒882-1101 西臼杵郡高千穂町大字三田井1037番地
☎ 0982-72-2413

地上の国である葦原中つ国は、我が子の天忍穂耳命が治めるべきと考えた天照大御神。天の安河原に八百万の神々が集まって話し合い、地上の平定に乗り出した。まず天菩比命が地上に降りたが、葦原の中つ国を治める大国主命に媚びへつらい一向に返事を寄こさない。次いで送った天若日子からも何の音沙汰もない。しかも、使いにやった雉を弓で射殺し、その矢が高天原にまで飛んできた。「悪しき心を持っているならこの矢が天若日子に命中するだろう」と言う高木神の言葉通りに、矢は戻って天若日子の胸を貫いた。次に選ばれたのは建御雷神。大国主命に国を譲るよう迫ると「私は何とも申し上げられません」と言う。子の事代主神は父の大国主命に「謹んで国を献上なさいませ」と勧めるが、もう一人の子である建御名方は抵抗し、力比べに敗れて後ようやく国を譲ることに同意した。大国主命も服従の気持ちを表し、葦原の中つ国は天つ神が統治することになった。

この間、天忍穂耳命には子が生まれていた。名を邇邇芸命といい、父に成り代わり葦原の中つ国を治めることが決まると、多くの神々を伴い天照大御神から授けられた三種の神器と共に地上へと向かった。その途中、道の真ん中に一人の神が佇んでいる。「邪魔をしているのは誰なのか」という天受売女神の問いに「私は国つ神で猿田彦神と申します。天つ神の御子が天からお降りになると聞きましたので、ご案内をいたしたくお出迎えしています」と恭しく答えた。かくして邇邇芸命の一行は、筑紫の日向の高千穂のくしふる峰に天降った。

霧島東神社（きりしまひがしじんじゃ）

高原町

高千穂峰の中腹に鎮座し、第10代崇神天皇の時代に創建されたと伝わる、霧島六社権現の一社。境内の飛び地がある山頂には、霧島東神社の社宝として祀られている天之逆鉾が突き刺さる。伊邪那岐命と伊邪那美命が国生みをした天沼鉾、あるいは邇邇芸命が天孫降臨の際に天照大御神から授かった鉾とも。

〒889-4414 西諸県郡高原町蒲牟田6437番地
☎ 0984-42-3838

御池（みいけ）

霧島東神社の参道から見下ろせる、霧島連山の中で最大最深の火口湖。知られている霧島連山の噴火の中で、最大規模のマグマ水蒸気噴火が約4600年前に起こり、その際に形成された火口に水が溜まってできた。神武天皇が幼少の頃遊んだことに由来する、皇子港の名が残されている。

☎ 0984-42-4038（御池キャンプ村管理事務所）

木花開耶姫との出会い

ー花のように限りある命ー

邇邇芸命は笠沙の御崎で美しい乙女を見初めた。乙女は大山津見神の娘の木花開耶姫。邇邇芸命が結婚を申し込むと父に聞いてほしいと言う。この話を父の大山津見神は大層喜び、木花開耶姫の姉の磐長姫も妹と一緒に送り出し、多くの祝いの品々を邇邇芸命に贈った。

姉の磐長姫の容姿は大変醜く、恐れをなした邇邇芸命は磐長姫を送り返し、木花開耶姫だけを留めおいて一夜を共に過ごした。これを大山津見神はいたく恥じた。

「二人を一緒に送り出したのには理由があったというのに。磐長姫を妻とすれば天つ神の御子のお命は岩のように永遠にゆるぎないものとなり、木花開耶姫を妻とすれば木の花が咲き誇るように栄えるだろうと。このうえは天つ神の御子のお命は、木の花のように美しくとも限りあるものになるだろう」

都萬神社

西都市

端正な佇まいの社殿が、石造りの太鼓橋の向こうの木立から垣間見える。御祭神は木花開耶姫。7月7日に斎行される更衣祭は七夕祭とも呼ばれ、邇邇芸命と木花開耶姫の婚姻の儀礼を表す約500年続く特殊神事。周辺には、邇邇芸命との出会いや三人の御子の出産などの伝承地を辿る「記紀の道」も。

〒881-0033 西都市大字妻1番地　☎0983-43-1238

男狭穂塚、女狭穂塚

寄り添う2つの古墳は、全長いずれも176m。男狭穂塚は邇邇芸命の陵墓、女狭穂塚は木花開耶姫の陵墓と伝えられてきた。毎年11月には西都原古墳群一帯で西都古墳祭りが開かれ、邇邇芸命と木花開耶姫の恋物語がこれらの陵墓前で上演されて祭りの最高潮を迎える。

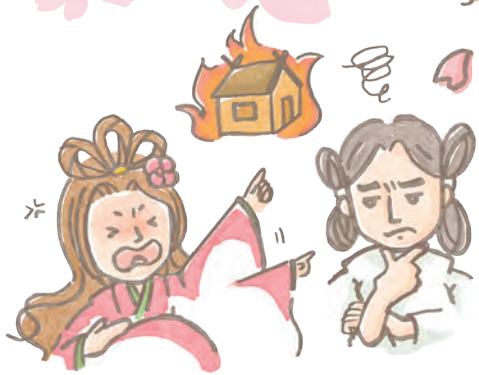
〒881-0005 西都市大字三宅5670番地　☎0983-42-0024（西都原古墳群管理事務所）

木花神社

宮崎市

境内には、木花開耶姫が三人の御子を出産した「無戸室（うつむろ）」の跡とされる地や、産湯に使ったとされる「霊泉桜川」などがある。かつてこの地には木花山法満寺もあったが廃寺となり、現存する阿弥陀堂に安置された木造阿弥陀如来立像は、鎌倉時代中期以降のものと考えられ宮崎市の有形文化財に指定。

〒889-2151 宮崎市大字熊野9508番地
☎0985-58-0229



その後、邇邇芸命の子を身ごもったと言う木花開耶姫に邇邇芸命はうろたえ「一夜で身ごもることがあるだろうか。我が子ではなく、国つ神の子に決まっている」と撥ねつける。心無い言葉に「私の身ごもった子が国つ神の子なら、産む時は無事ではないでしょう。もし天つ神の御子なら無事でしょう」と、戸口のない大きな家を造って中に入り、粘土で内側から塗り固めた。そして、いよいよ生まれるという段になると火を放った。

その火が盛んに燃える時に生まれた御子は、火照命（海幸彦）。次に生まれた御子は火須勢理命。その次に生まれた御子は火遠理命（山幸彦）である。

海幸彦と山幸彦

ー思いは波濤（はとう）を越えていくー

青島神社（あおしまじんじゃ）

宮崎市

ビロウ樹を始めとする亜熱帯性植物に覆われた周囲1㎞足らずの青島は、島全体が神社の境内になっている。橋で陸と島は結ばれ、良縁祈願の参詣者が続々と橋を渡ってくる。神社は、綿津見大神の宮から帰ってきた山幸彦の宮居の跡と言われ、深碧の樹々と南国の青い空に映える朱塗りの社殿がとびきり美しい。

〒889-2162 宮崎市青島2丁目13番1号
☎ 0985-65-1262

海で魚を獲る兄の海幸彦（火照命（ほでりのみこと））。弟の山幸彦（火遠理命（ほおりのみこと））は山で狩りをしていた。ある日、山幸彦は兄に頼み込んで道具を交換したが、一匹も魚を獲れず釣り針まで失くしてしまった。

兄は釣り針を返せと言って聞かない。

思い悩む山幸彦から話を聞いた塩椎神（しおつちのかみ）の手筈で、綿津見大神（わたつみのおおかみ）の宮に小舟でたどり着き、綿津見大神の娘の豊玉姫（とよたまひめ）と結ばれた。

三年が過ぎていた。山幸彦は釣り針を失くしたことを思い出し、大きなため息が出てしまった。早速綿津見大神が釣り針を探すと、鯛ののどに刺さっていた。急いで戻り兄に釣り針を返し、釣り針にかけられた呪いで貧しくなる一方の兄。果ては荒々しい心を起こして攻めてきたが、綿津見大神が山幸彦に授けた呪文と潮の満ち引きを操る珠で懲らしめられ、以後は山幸彦の護衛として仕えた。

野島神社（のしまじんじゃ）

宮崎市

樹齢400年を数える御神木のあこうは国の天然記念物に指定。二本の枝が結びついて一体化し、その枝から新たに伸びた枝がさらに幹となり大樹となっていることから「夫婦あこう」と名付けられている。縁結び、夫婦円満などに御利益があるという。御祭神は塩筒大神（しおつちのおおかみ）、猿田彦神（さるたひこのかみ）、住吉三前神（すみのえのまえのかみ）。

〒889-2301 宮崎市内海6227番地
☎ 0985-67-1234

鵜戸神宮（うどじんぐう）

日南市

太平洋に切り立つ断崖とさまざまな形で屹立（きつりつ）する奇岩のなか、とりわけ目を奪う洞窟に本殿がある。御祭神の鵜葺草葺不合命が誕生した産屋があったと伝わる。洞窟内にあるお乳岩は、育児のために豊玉姫が乳房をくっつけたものという謂れがあり、安産と子育ての守護を願う人々から篤く信仰されている。

〒887-0101 日南市大字宮浦3232番地
☎ 0987-29-1001

やあって、身ごもった豊玉姫が山幸彦のもとにやってきた。「本来の姿に戻って産もうと思います。決して覗かないでください」という豊玉姫の言葉を不思議に思った山幸彦は産屋を覗いてしまう。目にしたのは大きなサメが苦しむ姿。

覗き見されたことを知り豊玉姫は「こんなに恥ずかしいことはありません」と海へ帰ってしまった。恨みは晴れないものの子を愛しく思う心は抑えきれず、妹の玉依姫（たまよりひめ）に我が子鵜葺草葺不合命（うがやふきあえずのみこと）の養育を委ねた。

神倭伊波礼毘古命、初代天皇に

ー日向から東へー

高千穂の宮で鵜葺草葺不合命の子、神倭伊波礼毘古命（後の神武天皇）は、兄の五瀬命に相談を持ち掛けた。

「いずれの土地に赴けば、天下を平穏に治められるのだろうか」

やはりもっと東の方に行くべきだと決意し、神倭伊波礼毘古命は軍勢を率いて日向の国を後にする。

しかしながらそのまま東へ順風満帆では進めず、戦いの最中に兄の五瀬命や多くの将兵を失い、神倭伊波礼毘古命は劣勢にあった。そこへ、高天原から建御雷神が葦原中つ国の平定に用いた大刀がもたらされると、破竹の勢いで多くの敵を打ち破り、ついに畝火（現在の奈良県）の白橿原宮で初代天皇に即位したのである。

さて、宮崎県には、神武天皇の出生から東征への出発まで、数々の伝説が残されている。

神武天皇は、高千穂の峰の麓の狭野原で生まれたと言われ、幼少期は狭野命という名で呼ばれていた。遊び場であった御池に映る高千穂の峰を眺めて、高天原に思いを馳せていたのだろうか。皇宮屋で約三十年間日向を治め、四十五歳で東征に出発する。

その出発の経緯を伝える「お船出伝説」によると、天候が良好になったため急遽早朝の出発が決まり、美々津の人々が夜半に「起きよ、起きよ」と起こされて出発の準備をしたという。現在旧暦八月一日に美々津で催される「おきよ祭り」はその伝説に由来する。

宮崎神宮

宮崎市

社伝によると、神武天皇の孫にあたる健磐龍命（たけいわたつのみこと）によって創建された。神日本磐余彦天皇（神武天皇）を御祭神とする。本殿は緑青に覆われた銅板葺の屋根が作る流麗な曲線と、伊勢神宮の神明造に影響を受けた切妻造の直線がシンプルな美しさを生み出し壮観。用材は樹齢100年以上の狭野杉。

〒880-0053 宮崎市神宮2丁目4番1号
☎ 0985-27-4004

皇宮神社

宮崎市

宮崎神宮の摂社で、宮崎神宮から西北方向に600mほどの距離にある。皇宮屋とも言う。神武天皇が東征に出発するまでの宮の跡とも、高千穂の宮ともされる。現在の社殿は、1968年に行われた伊勢神宮の第60回神宮式年遷宮で解体された、外宮外幣殿の古材を譲り受け、再利用して改築したもの。

〒880-0035 宮崎市下北方町横小路　☎0985-27-4004（宮崎神宮）

平和台公園

街を見守るように丘陵地の上に直立する平和の塔。神武天皇の即位から2600年経った1940年に建てられた。周囲に9900㎡の公園が広がる。園内には、1964年の東京オリンピックの時に作られた宮崎県の聖火台があり、縄文式土器のような形が目を引く。また、丘陵南斜面には下北方古墳群を構成する古墳が、前方後円墳を始め多数確認されている。

〒880-0035 宮崎市下北方町越ヶ迫6146　☎0985-35-3181

宮崎の神楽

神話をもっと楽しむ

宮崎を始めとする九州山地沿いの地域に伝わる神楽のほとんどは、集落ごとに主に庶民によって演じられてきた。民家などに神を招き、稲作や狩猟、漁での豊穣を願い、感謝を捧げる歌舞を奉納する。そのため、里神楽とも称され、神事であり民俗芸能だ。

また、奉納する時期により春神楽と冬神楽とに大きく分かれる。

春神楽は稲作・畑作と深く結びついているといわれ、稲作地帯である宮崎市とその周辺では春神楽の割合が過半数を占める。宮崎市の代表的な春神楽である生目神社神楽では、稲作儀礼が重要視されていて、豊作を祝い夫婦で餅を搗く舞の「杵舞」、田の神が国や農耕について神主と問答する「田の神」といった演目がある。

冬神楽といえば「高千穂の夜神楽」が全国的に有名。本来冬に夜を徹して三十三番全ての演目が行われるところを、「御神体」「手力雄」「細女」「戸取」の四番を高千穂神社の神楽殿で毎晩奉納している。親しまれている神話のエピソードが演じられるので、神話の世界をより理解しやすい。

生目神社神楽

野島神楽

青島神社神楽

宮崎市の神楽

巨田神楽［巨田神社］
11月第2日曜日巨田神社例祭・
11月23日、24日愛宕神社大祭
宮崎市佐土原町上田島10732番地

上畑神楽［河上神社］
11月中旬
宮崎市大字大瀬町上畑4422番地

広原神社神楽［広原神社］
春分の日・秋分の日・11月3日
宮崎市広原5832番地

島之内八幡神社神楽［八幡神社］
元旦・春社日前後の日曜日・
11月15日
宮崎市大字島之内7599番地

住吉神社神楽［住吉神社］
元旦・2月11日例祭・3月社日祭
宮崎市大字塩路3082番地

新名爪八幡宮神楽［新名爪八幡宮］
春秋の彼岸の中日
宮崎市大字新名爪4449番地

江田神楽［江田神社］
春祭・4月第3日曜日社日祭
宮崎市阿波岐原町産母127番地

高屋神社社日神楽［高屋神社］
3月春社日祭・
3月村角地区桜まつり
宮崎市村角町橘尊1975番地

大島神楽［大島神社］
春社日祭・夏の御神幸祭・越年祭
宮崎市大島町本村200番地

春神楽［一葉稲荷神社］
3月18日に近い日曜日
宮崎市新別府町前浜1402番地

奈古神社春神楽［奈古神社］
元旦・4月第1日曜日・敬老の日
宮崎市南方町御供田1192番地

下北春神楽［名田神社］
4月下旬
宮崎市下北方町平ノ下5217番地1

跡江春神楽［跡江神社］
旧暦2月初午
宮崎市大字跡江810番地

火祈祷神楽［白髭神社］
12月第2土曜日
宮崎市大字有田2311番地

下小松神楽［若宮神社］
3月の日曜日
宮崎市大字小松777番地

小松里神楽［小松神社］
2月最終日曜日
宮崎市大字小松1930番地

浮田春神楽［浮田神社］
3月
宮崎市大字浮田2816番地

長嶺神社春神楽［長嶺神社］
3月第2日曜日
宮崎市大字長嶺292番地

細江神楽［細江神社］
3月第1日曜日
宮崎市大字細江12番地13

生目神社神楽［生目神社］
3月15日に近い土曜日里神楽・
旧暦1月15日～17日に近い土曜日、
日曜日縁日大祭
宮崎市大字生目345番地

大塚神社春神楽［大塚神社］
2月3日節分祭・
3月17日に近い日曜日祈年祭
宮崎市大塚町原ノ前1598番地

吉村八幡神楽［八幡神社］
3月最終日曜日春神楽祭
宮崎市吉村町宮ノ脇甲2133番地

古城神楽［古城神社］
春分の日
宮崎市古城町時雨3861番地

船引神楽［船引神社］
3月第2、第3日曜日・春分の日
宮崎市清武町船引6622番地

中野神楽［中野神社］
2月第3日曜日・12月～1月
宮崎市清武町木原525番地

本郷神楽［田元神社］
祈年祭・例祭
宮崎市大字本郷南方3940番地1

今泉神社神楽［今泉神社］
元旦・3月第4日曜日・春秋の彼岸
宮崎市清武町今泉丙1525番地

御伊勢神楽［加江田神社］
春例大祭・夏例祭・秋例祭
宮崎市学園木花台桜1丁目29番4

青島神社神楽［青島神社］
成人の日前日裸参り前夜祭・
3月中旬浦祭り
宮崎市青島2丁目13番1

野島神楽［野島神社］
11月23日
宮崎市大字内海6227番地

出所：『宮崎の神楽と特殊神事』（宮崎県神社庁、2019年）

宮崎の史跡と施設

宮崎には神話や古代の世界さながらの文化遺産が数多い。
いくつかは、地域の歴史的魅力や特色を通じて
我が国の文化・伝統を語るストーリーである、文化庁の「日本遺産」にも
「古代人のモニュメントー台地に絵を描く 南国宮崎の古墳景観ー」として認定された。

蓮ヶ池横穴群
（国指定史跡、日本遺産）

宮崎市大字芳士

6世紀の後半から7世紀の前半にかけての築造。現存する82基の横穴墓のうちの一つ、53号墓の玄室の壁面には、船や鳥、人物、鬼の顔などの線刻が施されており、当時の人々が持っていた死後の世界観を表す貴重な資料でもある。

生目古墳群
（国指定史跡、日本遺産）

宮崎市大字跡江

4～6世紀の前方後円墳8基と円墳42基の古墳が確認され、史跡公園として整備されている。隣接する宮崎市生目の杜遊古館に展示された出土遺物や解説により、生目古墳群および宮崎市内の古墳について詳しく知ることができる。

宮崎市生目の杜遊古館　宮崎市大字跡江4200番地3
☎ 0985-47-8001　9:00～16:30（入館は16:00まで）
休 月曜日（国民の祝日と重なる場合を除く）、祝日の翌日（土曜日、日曜日または休日にあたる場合を除く）、年末年始（12月29日から翌1月3日まで）

西都原古墳群
（国指定特別史跡、日本遺産）

西都市大字三宅

陵墓参考地の男狭穂塚・女狭穂塚を加えると、319基にも及ぶ古墳群。3世紀末から7世紀にかけて築造された。復元整備が進み築造当時に近い姿が見られるものも。宮崎県立西都原考古博物館に出土遺物の保管と展示がされている。

宮崎県立西都原考古博物館　西都市大字三宅字西都原西5670番
☎ 0983-41-0041　9:30～17:30（展示室への入室は17:00まで）
休 月曜日（国民の祝日と重なる場合は翌日）、祝日の翌日（土曜日、日曜日または休日にあたる日を除く）、年末年始（12月28日から翌1月4日まで）

宮崎県総合博物館

宮崎市神宮

宮崎県の自然や歴史、民俗についての常設展示がある。民俗展示室には神楽を奉納する御神庭が、色とりどりの幣や彫り物と呼ぶ白の切り紙で飾られて再現されている。スクリーンが下りてきてシアターにもなる。

宮崎県総合博物館　宮崎市神宮2丁目4番4号
☎ 0985-24-2071　9:00～17:00（入館は16:30まで）
休 火曜日（国民の祝日と重なる場合を除く）、祝日の翌日（土曜日、日曜日または休日にあたる場合を除く）、年末年始（12月28日から翌1月4日まで）、各種メンテナンス日

佐土原城跡
（国指定史跡）

宮崎市佐土原町

14世紀半ばごろ築かれた山城で伊東四十八城の一つ。日本最南端の天守台があった。登城路の手前にある歴史資料館では、江戸時代に居城とした佐土原島津家の調度品のほか、巨田神社棟札（国指定重要文化財）などを展示。

宮崎市佐土原歴史資料館　宮崎市佐土原町上田島8227番地1
☎ 0985-74-1518　9:00～16:30（入館は16:00まで）
開館日 土・日・祝日。5月15日～6月14日（この期間中は休館日なし）

天ヶ城址
（宮崎市指定史跡）

宮崎市高岡町

関ヶ原の合戦で敗れた島津義弘が内山城と呼ばれていた山城を天ヶ城と改名し、武士を移住させて守りを固めた。約400年後の1993年、城跡に天ヶ城歴史民俗資料館が城郭風の建物で開館。江戸時代の人々の暮らしを紹介している。

天ヶ城歴史民俗資料館　宮崎市高岡町内山3003番地56
☎ 0985-82-2950　9:00～16:30（入館は16:00まで）
開館日 土・日・祝日。5月15日～6月14日（この期間中は休館日なし）

宮詣（みやもうで）
神話マップ
MIYAMODE SHINWA MAP